

ゆ、王子にはセシムと附たり、又大夫人にハシカシ、夫人にハシカシともオリケともオリクとも附たり、その中に高麗のを云るもあり、北史百濟傳に、王妻號於陸夏言、妃也と云るに依らば、オリケとあるはクをケに誤れるにや、さて又百濟國主をニリムと訓る、往々あり、其外にも異なる訓ども見えたれども、寫誤などもありと見えて、さだかならず、又雄略卷に百濟の弟の名に、軍君と云あるを、コニキシ、又コムキシと訓、細註に、岷支君也と云るし、百濟新撰と云書を引たるにも、琨支君とあり、王號と同じきはまぎらはし、同卷に、岷支王と云名も見えたり、抑三國の中に、百濟のみ其國言の號どもの彼此傳はれるは、百濟は中にも殊に親しく奉仕れる故なるべし。

我孫

〔伊呂波字類抄〕安我孫アホコ

〔古事記傳 二十二〕阿毘古アヒコは、日代宮段に木國、酒部阿毘古景行紀に山部阿弭古アヒコなど云姓も見え、姓氏錄にも、輕我孫カシラヒコなどあれば、まづは尸カシラなれども、姓氏錄に、たゞ我孫アヒコ同國、雜姓なり、又我孫アヒコ公ミコ、雜姓なり、今和泉國和泉郡に、我孫アヒコ子コと云處あり、又續後紀五に、など云もあれば、尋常の尸カシラとは、いさゝか河内國人我孫アヒコ公諸成、同姓阿比古アヒコ道成と云人見えたり、など云もあれば、尋常の尸カシラとは、いさゝか異なるが如し、さて稱意は、吾彦アヒコと云ことにやあらむ、吾アヒコは親みて云彦ヒコは美て云なり、孫と書るの子をば比古ヒコと云り、麻基アサキと云は、後世の言なり、されば古書に孫とあるは、みな比古ヒコと云なり、和名抄に、孫和名無萬古ムツナカ、一云比古ヒコ、曾孫和名比古ヒコとあり、されば無萬古ムツナカと云は、やゝ後のことにて、比古ヒコと古稱なる、さて今孫を麻基アサキと云は、無麻古ムツナカの訛、曾孫を比古ヒコと云は、比古ヒコの訛なり。

村主

〔拾芥抄〕中本村主スクリ

〔倭名類聚抄〕六伊勢國安濃郡村主須久

〔倭訓栞〕中編十一「すぐり」日本紀に村主をよめり、韓語に村をすぎとよめり、ぐり反ぎなれば同語なり。